

JASDAQ

証券コード:6267

平成19年12月2日

日興アイ・アール株式会社主催
個人投資家向けIR説明会



包装システムの市場創造型トータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

 **General Packer**
The total planner of a packaging system

目次

I. 会社概要

II. 業界の状況と当社の特徴

III. 業績動向と主な取組み

IV. 中期経営計画ならびに

2008年7月期業績見通し

I. 会社概要

会社概要(2007年7月31日現在)

- 設立 1966年(創業 1961年)
- 資本金 251百万円
- 発行済株式数 8,994千株
- 売買単位 1,000株
- 決算期 7月末
- 事業内容 各種自動包装機の製造・販売
(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)
- 従業員数 101名(その他臨時雇用者22名)
- 事業所 本社・工場、東京営業部

沿革

- 1961年 東陽商事(有)を設立
- 1962年 (株)ゼネラルパッカーを設立
- 1966年 東陽商事(有)をゼネラルパッカー販売(株)へ改称
- 1969年 ゼネラルパッカー販売(株)が(株)ゼネラルパッカーを
吸収合併し、商号をゼネラルパッカー(株)と改称
- 1977年 本社工場を新設
- 1989年 本社工場に隣接して社屋(北館)を新設
- 2003年 **ジャスダック市場に上場**
- 2004年 本社工場南隣に社屋(南館)を新設
- 2006年 **平成17年度愛知ブランド企業に認定**
- 2007年 本社工場に隣接して工場(東館)を新設



Aichi
Quality

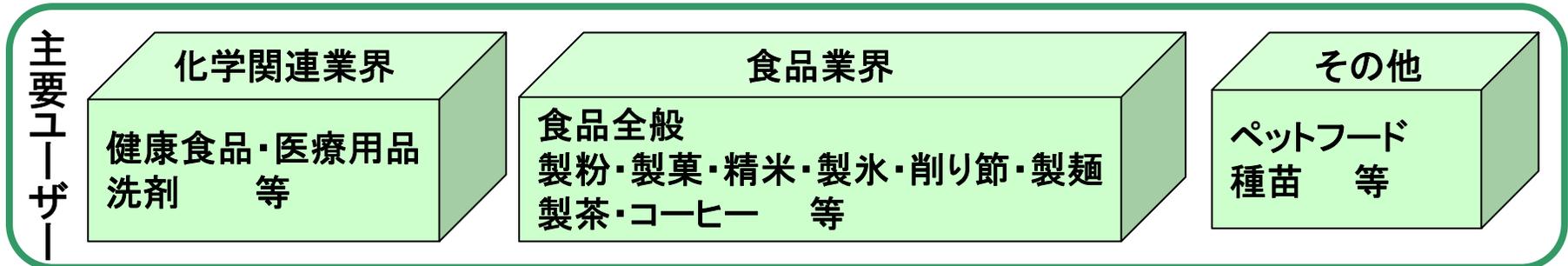
認定番号214

事業内容-1

当社

包装機械・包装システム等を
各ユーザーの工場等へ販売

身近な商品の包装に、当社の
機械が活躍しています。



病院

- 輸液バック
- カテーテル
- 粉末薬品

各店舗

スーパーマーケット
コンビニエンスストア
ドラッグストア
ホームセンター 等

消費者

* 当社機械で包装されている主な袋詰商品例

- 小麦粉
- ふりかけ
- 花かつお
- パン粉
- ナッツ類
- ロックアイス
- 粉末茶
- お米



- スパゲティ
- キャンディ
- 健康食品
- ペットフード
- 肥料
- 野菜・花の種
- 粉末洗剤

事業内容-2

袋詰用自動包装機の売上が約6割

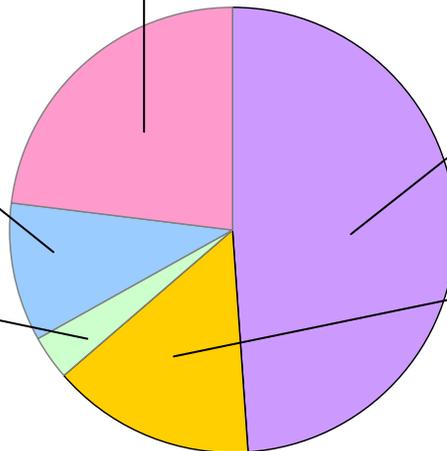


包装関連機器等
411百万円
10.1%

ガス充填自動包装機
129百万円
3.2%



保守消耗部品その他
938百万円
23.0%



給袋自動包装機
1,987百万円
48.8%

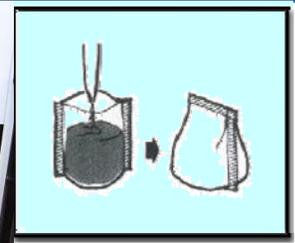
製袋自動包装機
607百万円
14.9%



<2007/7期決算の状況>

品目内容

対象物(粉末・顆粒・固形物等)
を袋に充填して包装する機械



袋詰用包装機

給袋自動包装機

袋



給袋装置

充填・包装装置

菓子類、小麦粉、食品類、調味料、ペットフード、健康食品、医療用品、肥料、粉末薬品、電子部品等の袋詰用包装機。多品種少量生産向け。

製袋自動包装機

フィルム



製袋装置

充填・包装装置

充填物は給袋自動包装機と同様。小袋の高速包装から大袋包装まで。フィルムから袋を作りながら包装する機械。

ガス充填自動包装機

袋



給袋装置

充填・包装・ガス充填装置

花かつお、バターピーナッツ等の袋詰用包装機。

包装関連機器等

付帯機器(充填機、計量機、計数機、印字機等)、段ボールケーサー、各種包装システム等

保守消耗部品その他

当社販売機械の保守、修理・交換用部品、印字機等の取付・改造等

袋詰用包装機⇒ロータリー式包装機が主力

メカニカル機構技術

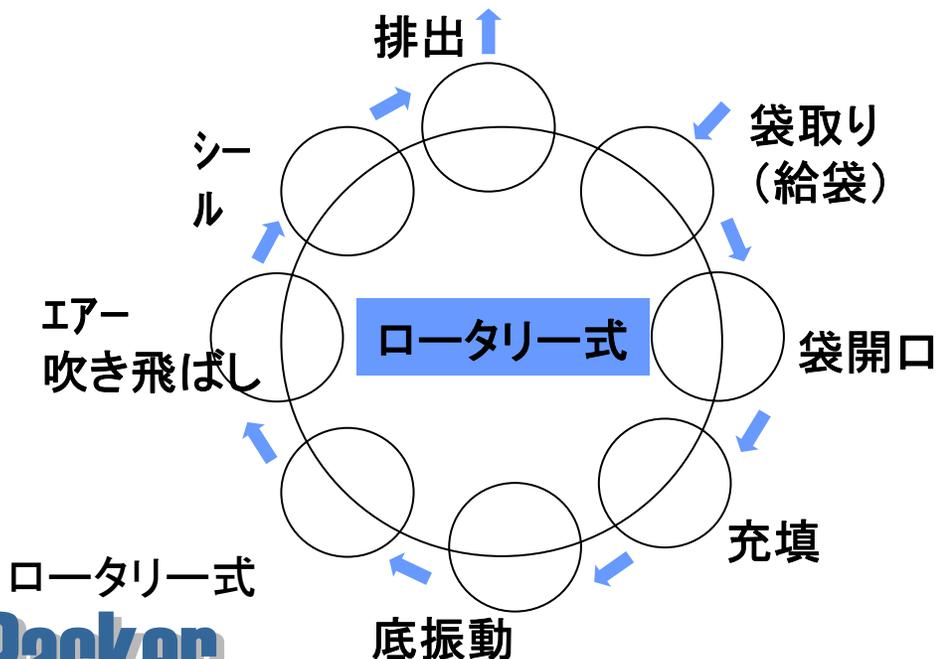
(1つの動力源からの主動作を、カムやリンク機構を用いて各動作に連動させる技術)

ロータリー式包装技術

汎用性高い

省スペース

高難度の包装に対応



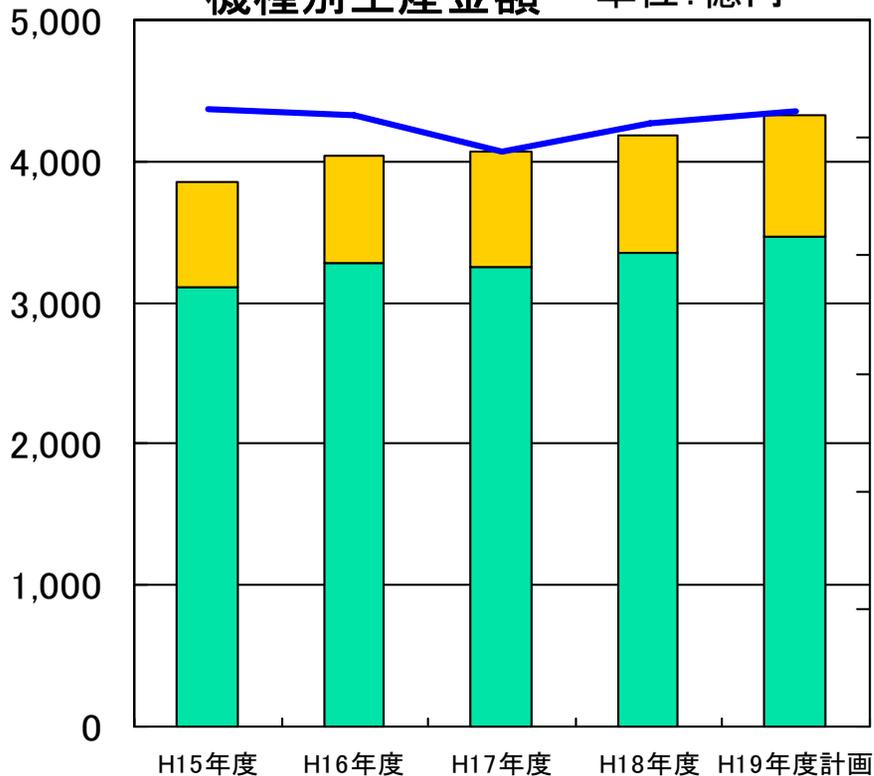
Ⅱ. 業界の状況と 当社の特徴

業界動向

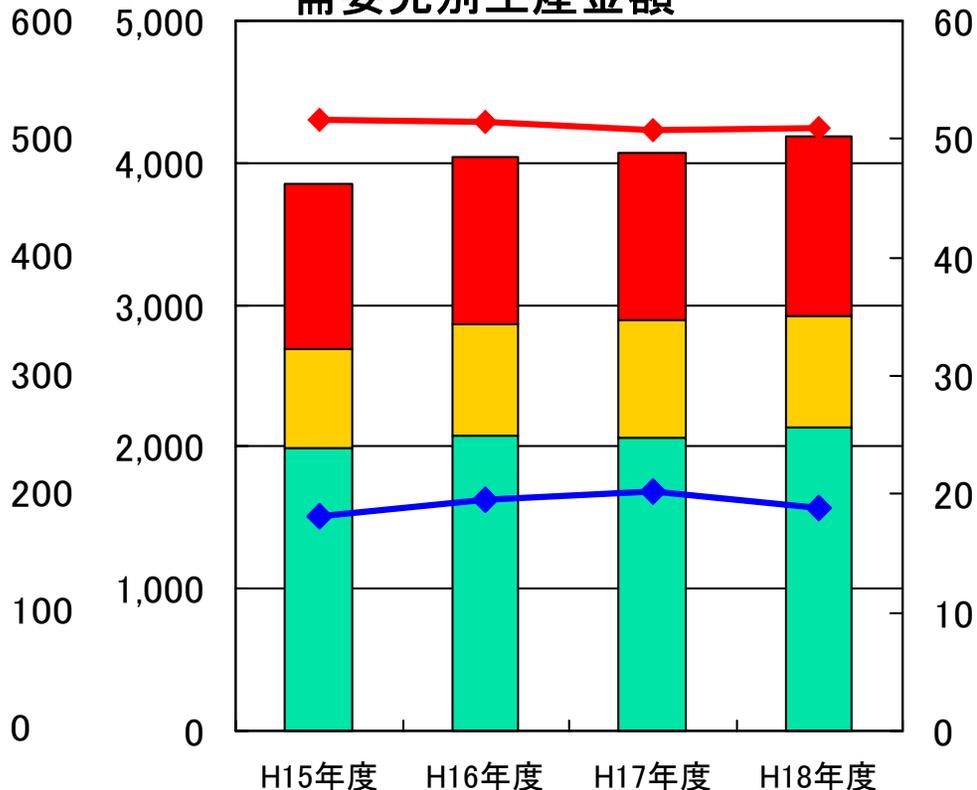
(社)日本包装機械工業会

「包装機械及び荷造機械生産高統計」

機種別生産金額 単位:億円



単位:億円 需要先別生産金額 単位:%



■ 個装・内装機械 ■ 外装・荷造機械
—◆— 製袋充てん機(右軸)

■ 食品部門 ■ 化学部門
—◆— その他 —◆— 食品部門構成比(右軸)
—◆— 化学部門構成比(右軸)

包装機械業界

単位:億円

機種別	生産高
個装・内装機械	3,353
包装用計量機	201
充てん機	428
びん詰機械	495
製袋充てん機	512
真空包装機	116
その他	1,301
外装・荷造機械	837
ケース詰機	160
その他	677
合計	4,191

企業数 420社以上(専門メーカー 約240社)
中小企業が約9割

主な上場企業

専門メーカー:東京自働機械製作所

兼業メーカー:CKD、渋谷工業、オーエム製作所、
ファブリカトヤマ 等

袋詰用包装機

当社の主力包装機の区分

当社:包装機械の専門メーカー

■ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装機械・システムに特化

- ・高品質・高難易度の包装分野
- ・チャック付袋包装、ガス充填包装等

主な競合先(ロータリ式包装機メーカー)

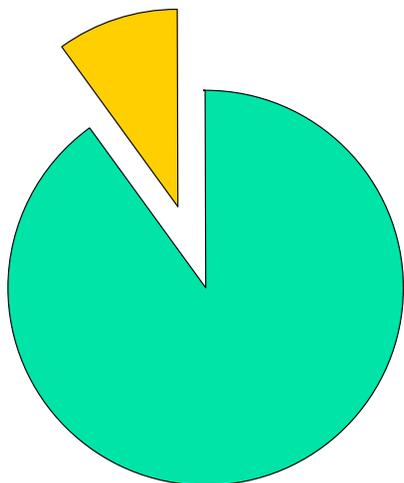
- ・東洋自動機(非上場):レトルト物の包装が主力
- ・古川製作所(非上場):ウェット物・真空の包装が主力

(社)日本包装機械工業会

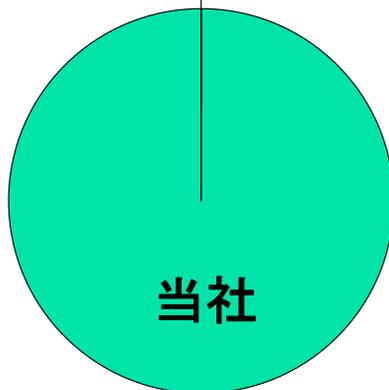
「包装機械及び荷造機械生産高統計」
平成18年度実績

多くの分野の袋詰用包装機でNo.1シェアを獲得

出所：当社推定

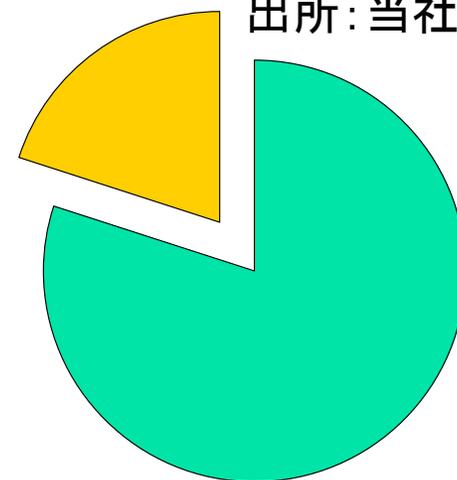


製粉

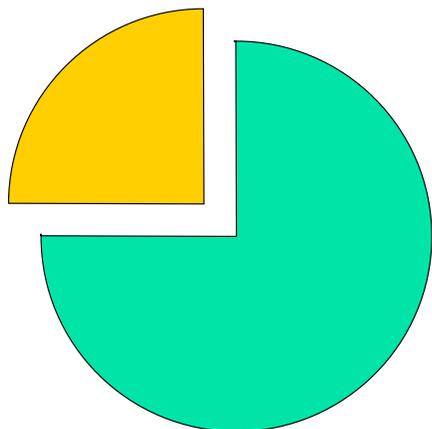


当社

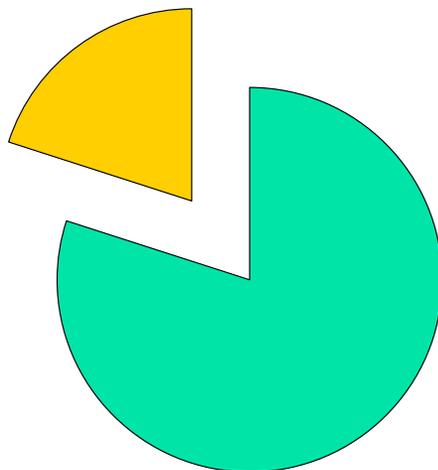
かつおミニパック



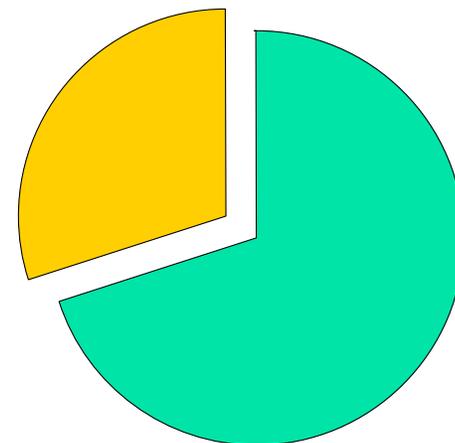
ロックアイス



ドリップ式コーヒー



精米



健康食品小袋

特徴－技術力

① 国内最高の高ガス置換技術を有する

- 削り節用包装機、ナッツ類用包装機でトップシェア

風味の保持←窒素ガスを封入、酸素を無い状態へ

当社：高ガス置換型

⇒残存酸素濃度 0.5%以下

他社：簡易ガス置換型

⇒残存酸素濃度 2%以上



特徴－技術力

②チャック付袋対応機種の豊富なラインナップ

■チャック付スタンドパウチ 対応機種(STタイプ)

■給袋自動包装機

6機種

■製袋自動包装機

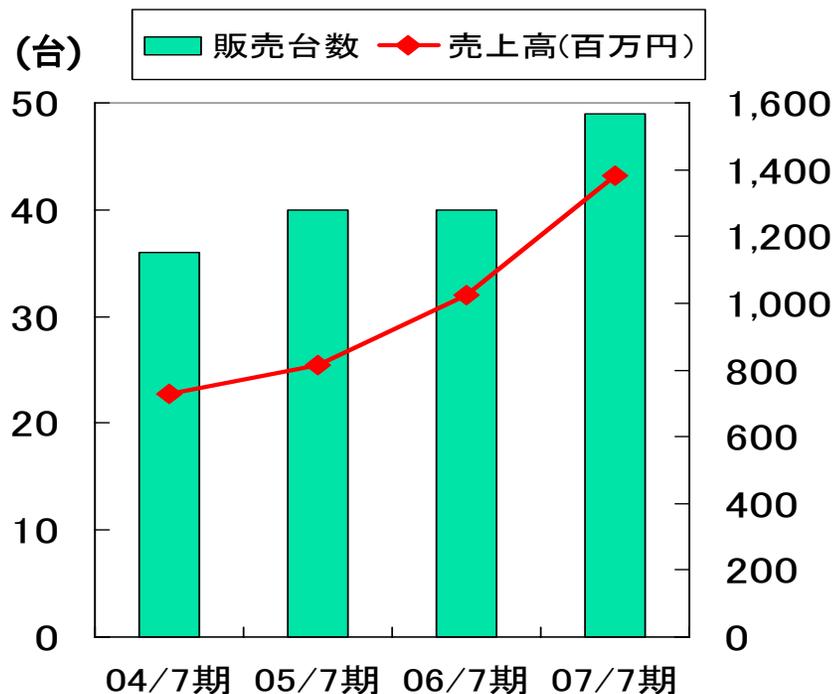
3機種

■チャック付製袋自動包装機

2機種

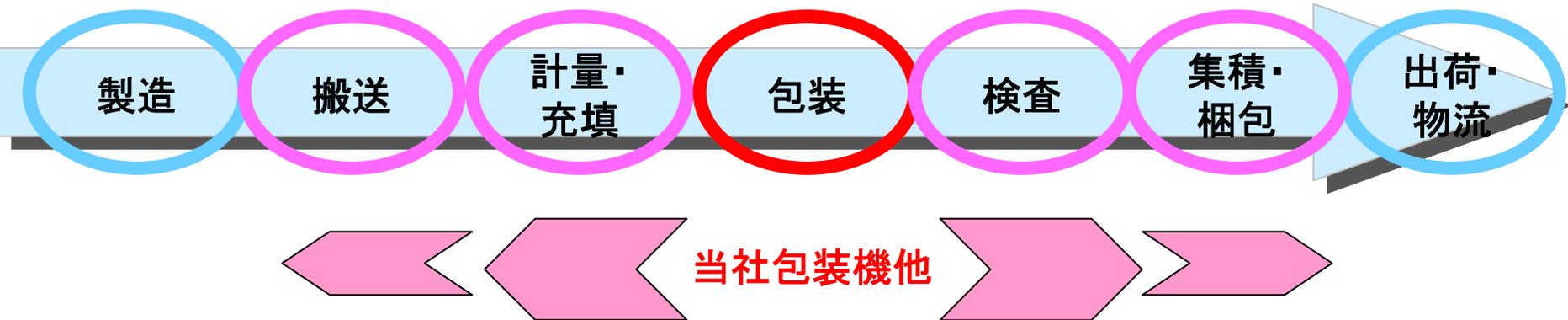


STタイプ販売台数／売上高



特徴－技術力

③包装システムのトータルプランニング



- 当社包装機をベースとしたトータルシステムの対応が可能
- 実績例：輸液バック包装システム
ドリップ式コーヒー包装システム 等

特徴－技術力

④医薬品・医療機器の包装

■輸液バック包装システム

- ・ガス充填包装
- ・バッグの受取・搬送・挿入・包装

■医薬品包装例

- ・プラスチックアンプル
- ・錠剤(素錠・PTP包装品)
- ・粉体薬品 等

■医療機器包装例

- ・シリンジ
- ・輸液チューブ
- ・医療用針 等



輸液ソフトバック



素錠



プラスチックアンプル

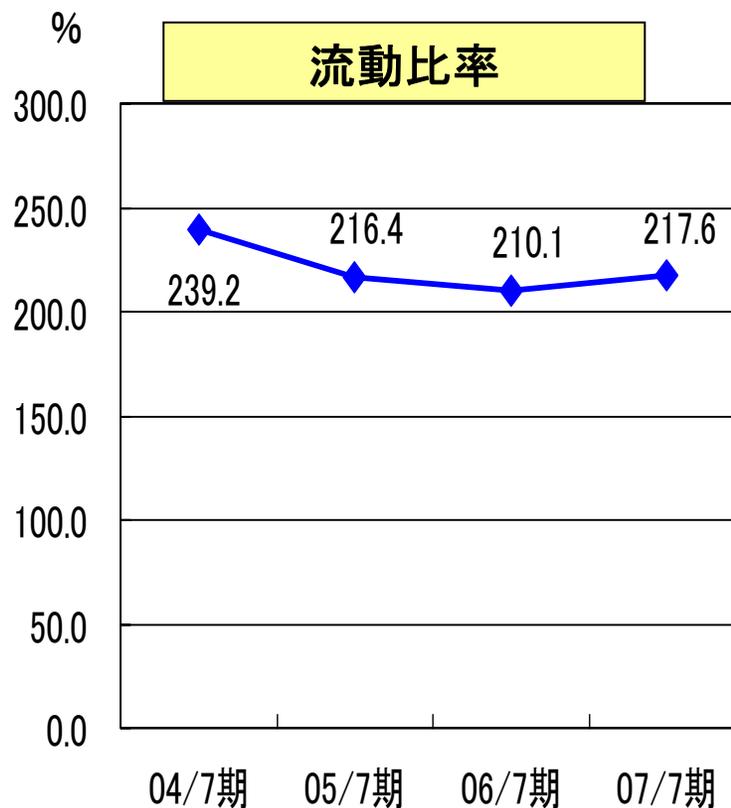
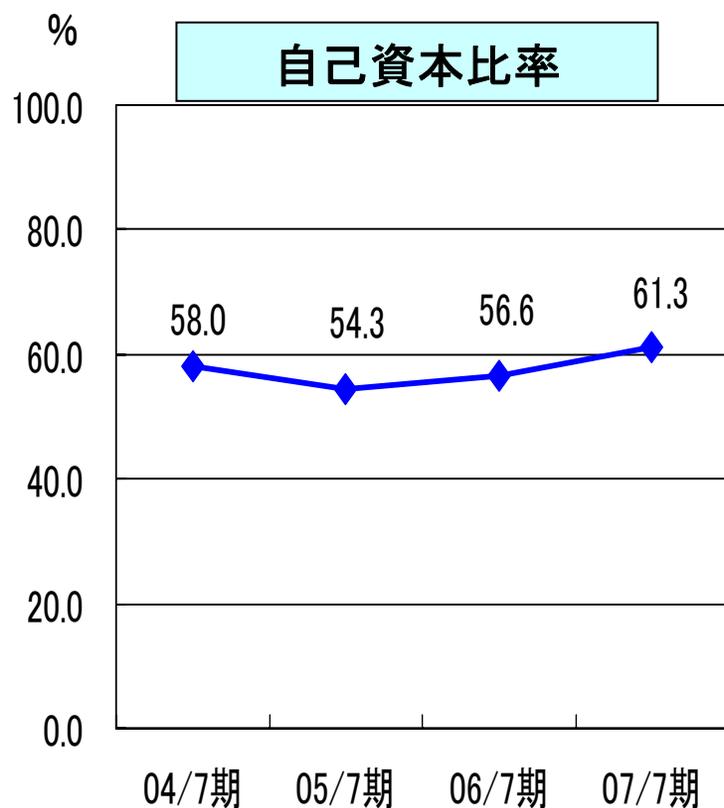


シリンジ

特徴－財務

⑤高い財務の安全性

無借金経営



Ⅲ. 業績動向と 主な取組み

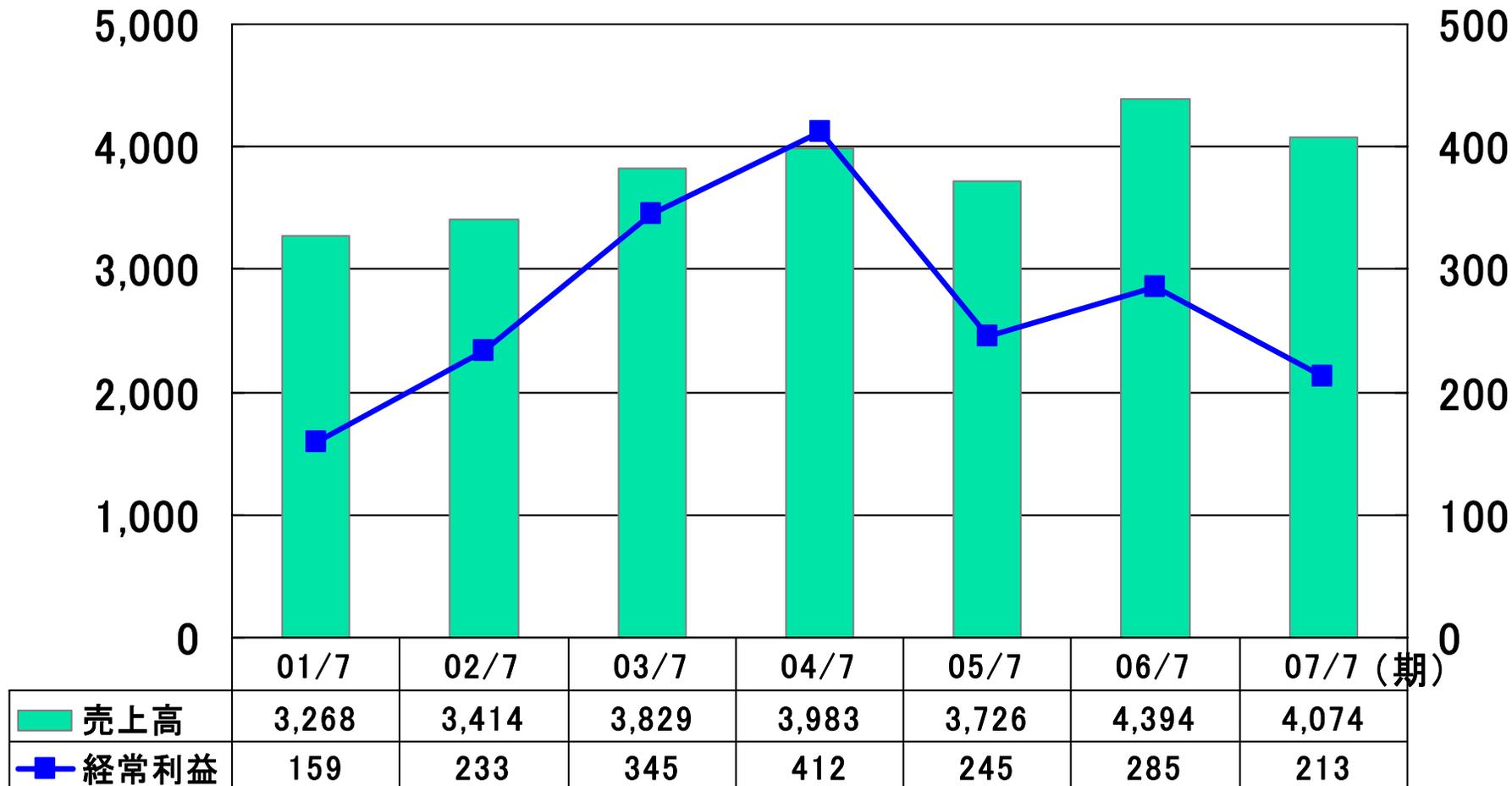
業績推移

直近3期間

売上総利益率の減少と、戦略的投資等の増加で、経常利益は、2億円台で推移

売上高 (百万円)

経常利益

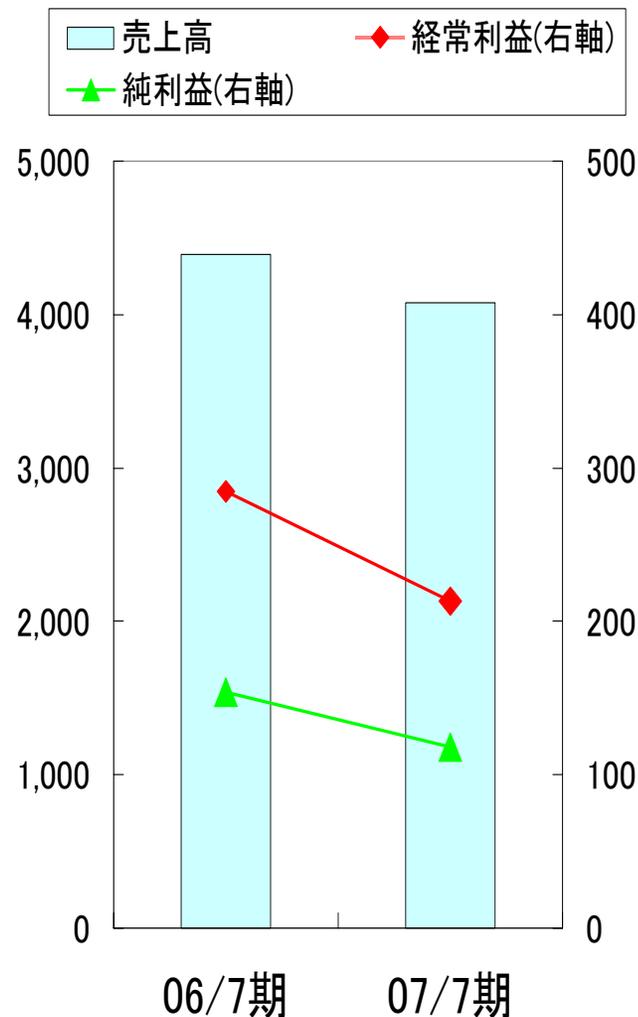


2007年7月期決算の実績

大型案件や高額機種の需要が低迷し、売上高・利益ともに減収・減益

(単位:百万円、%)

	06/7月期	07/7月期	前期比	
	金額 (構成比)	金額 (構成比)	金額	率
売上高	4,394 (100.0)	4,074 (100.0)	▲320	▲7.3
売上総利益	1,217 (27.7)	1,086 (26.7)	▲130	▲10.7
営業利益	278 (6.3)	211 (5.2)	▲66	▲24.0
経常利益	285 (6.5)	213 (5.2)	▲72	▲25.4
当期純利益	154 (3.5)	118 (2.9)	▲35	▲23.2



当社を取り巻く環境

包装機械の国内市場は成熟化

原油・食品原料の高騰

少子・高齢化社会の到来

最大需要先の食品部門の設備投資意欲は慎重姿勢

業種間・企業間格差が拡大
二極化の傾向

健康志向・ペットブームの高まり

食品の安全性に対する諸問題

当社の主な取組み

海外市場の開拓

医療分野の深耕

健康食品関連の深耕

ペットフード業界の深耕

印字検査装置の販売

業界大手上位への重点営業

主な取組みの進捗状況

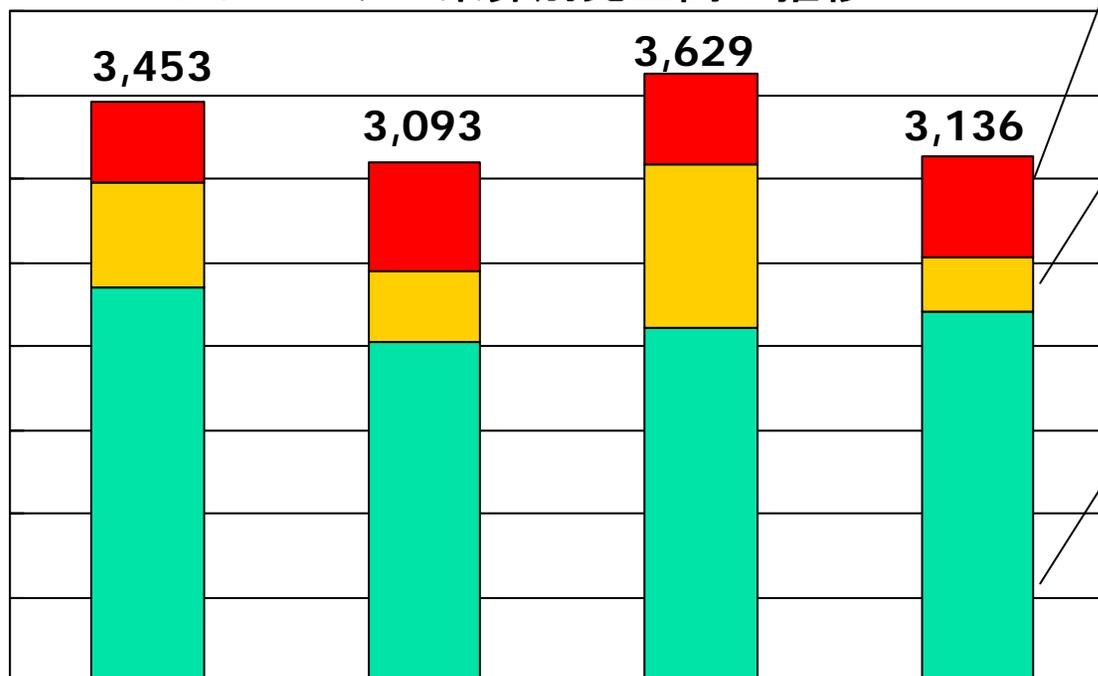
食品業界向けが60～70%



食品業界向け以外の深耕

百万円
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0

エンドユーザー業界別売上高の推移



その他
⇒ペットフード業界
の深耕

化学関連業界
⇒医療分野、
健康食品関連
の深耕

食品業界
⇒安定確保、
業界大手上位
への重点営業

■ その他	479	652	539	600
■ 化学関連業界	624	420	985	333
■ 食品業界	2,349	2,020	2,104	2,202

(注) 売上高は、機械の売上高のみ

主な取組みの進捗状況

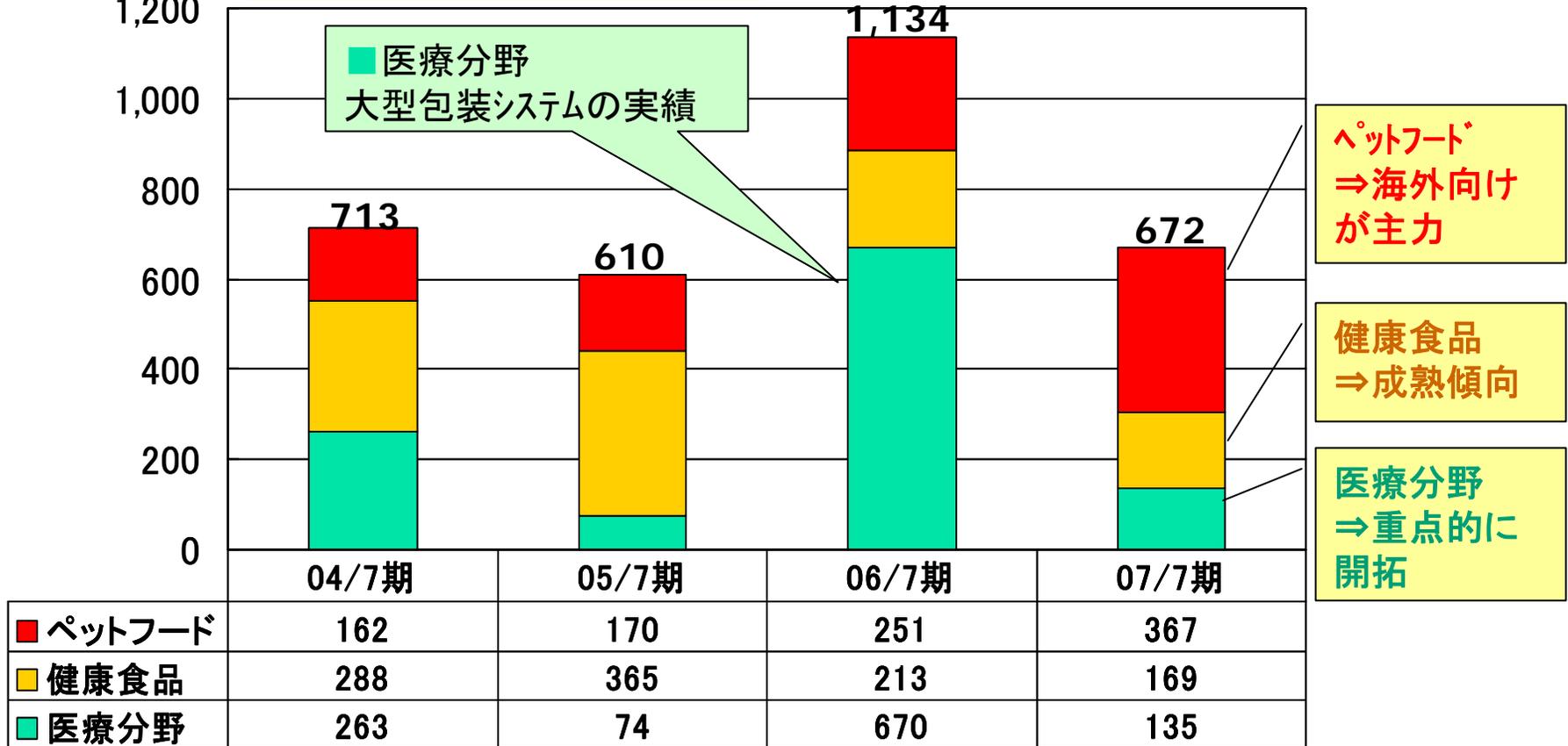
横ばい傾向、大型案件に依存

重点分野の深耕

新規顧客開拓の強化

百万円

重点分野別売上高の推移



(注)売上高は、機械の売上高のみ

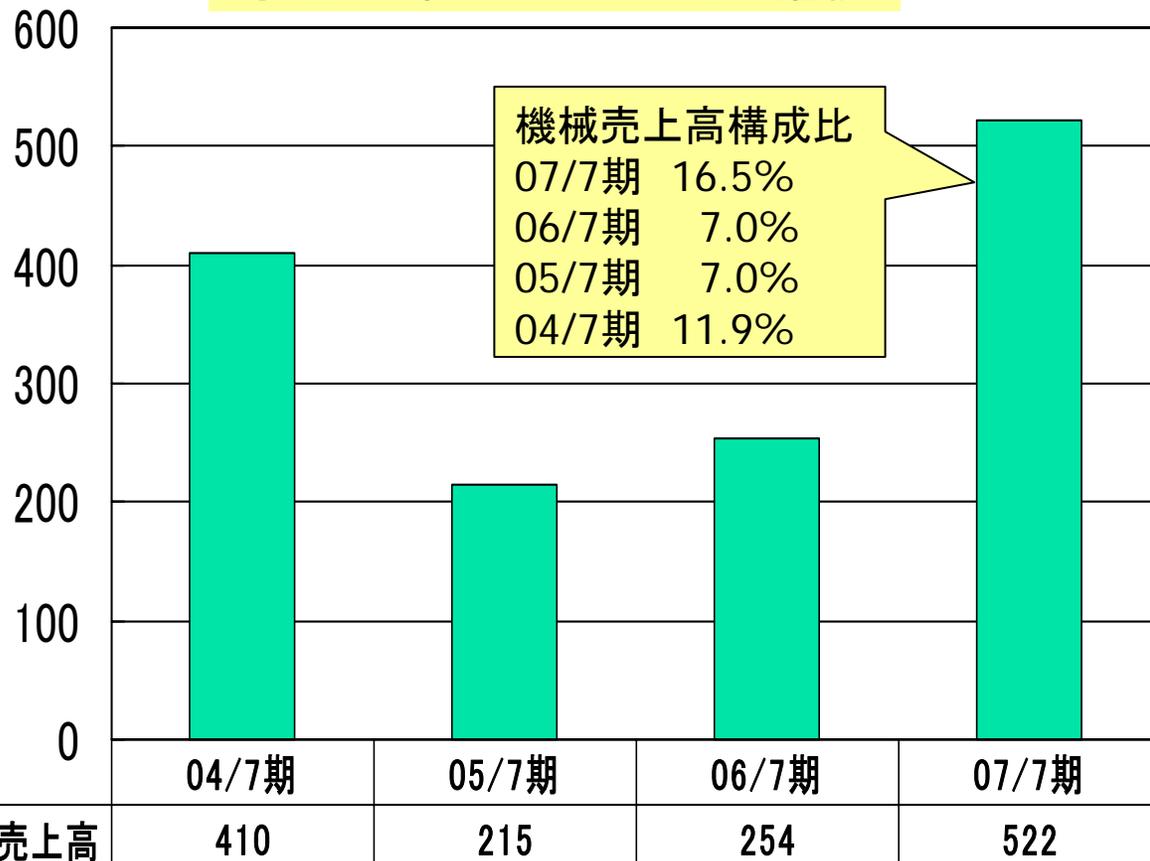
主な取組みの進捗状況

海外市場の開拓

グローバル企業の製造拠点への機械供給で売上高増加

百万円

海外売上高(エンドユーザー)の推移



現状の課題
特定ユーザー向けが中心



海外向けの対応力の強化

営業体制の整備
技術者の育成

(注)売上高は、機械の売上高のみ

主な取組みの進捗状況

印字検査装置の販売

印字機・検査機器等の取付・改造案件の売上が好調

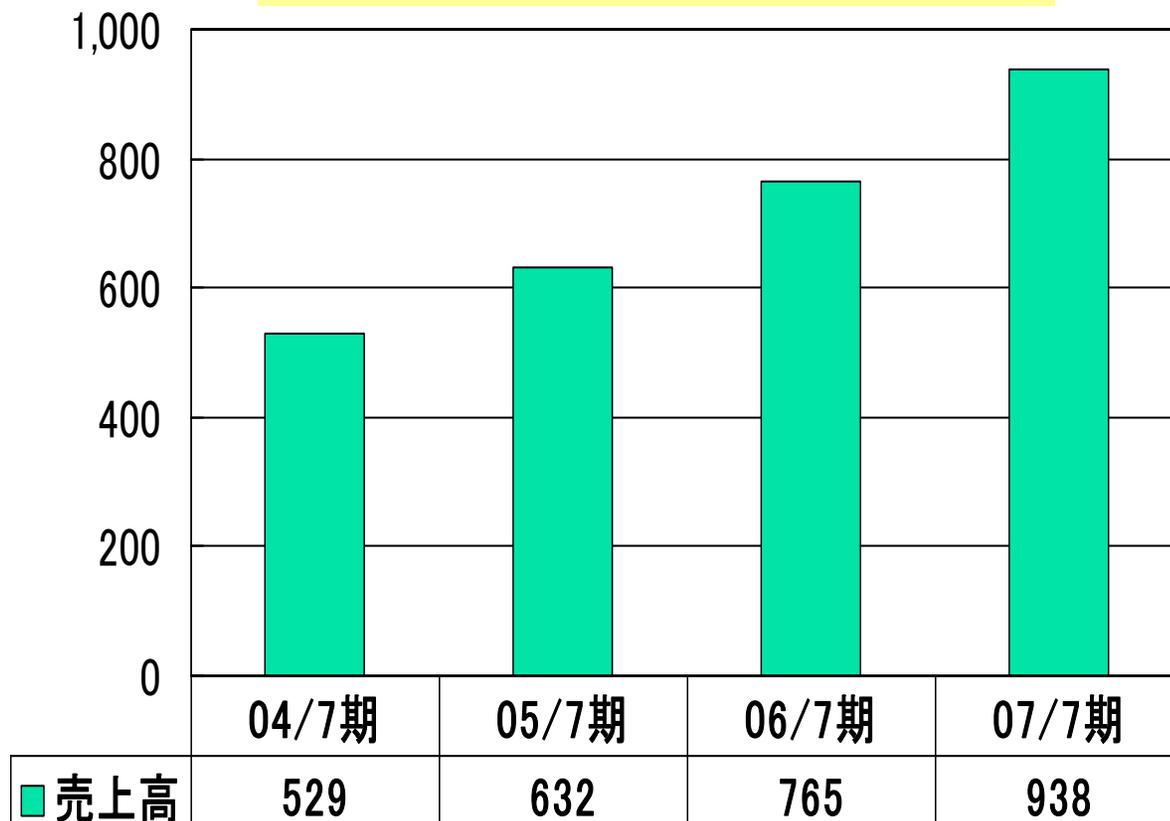


自社ブランドの印字
検査装置の販売開始

包装機械の買換需要
の促進

百万円

保守消耗部品その他売上高の推移



IV. 中期経営計画ならびに 2008年7月期業績見通し

中期経営計画(2006年7月期～2008年7月期)

◆経営ビジョン

1. ドライ物向けのロータリー式自動包装機No. 1企業
2. 知的労働特化型企业
3. 包装システムの市場創造型プランナー

◆主な取組み

1. 中長期的な成長基盤を強化するための戦略的投資等の増加
 - 販売促進投資・研究開発投資・人材投資等
2. 営業体制の強化と海外市場の開拓・販路の拡大
3. チャック付袋対応機種のパッケージ強化と拡販
4. ガス充填システム搭載機種の拡販
5. 重点分野(医療分野・健康食品・ペットフード等)への深耕

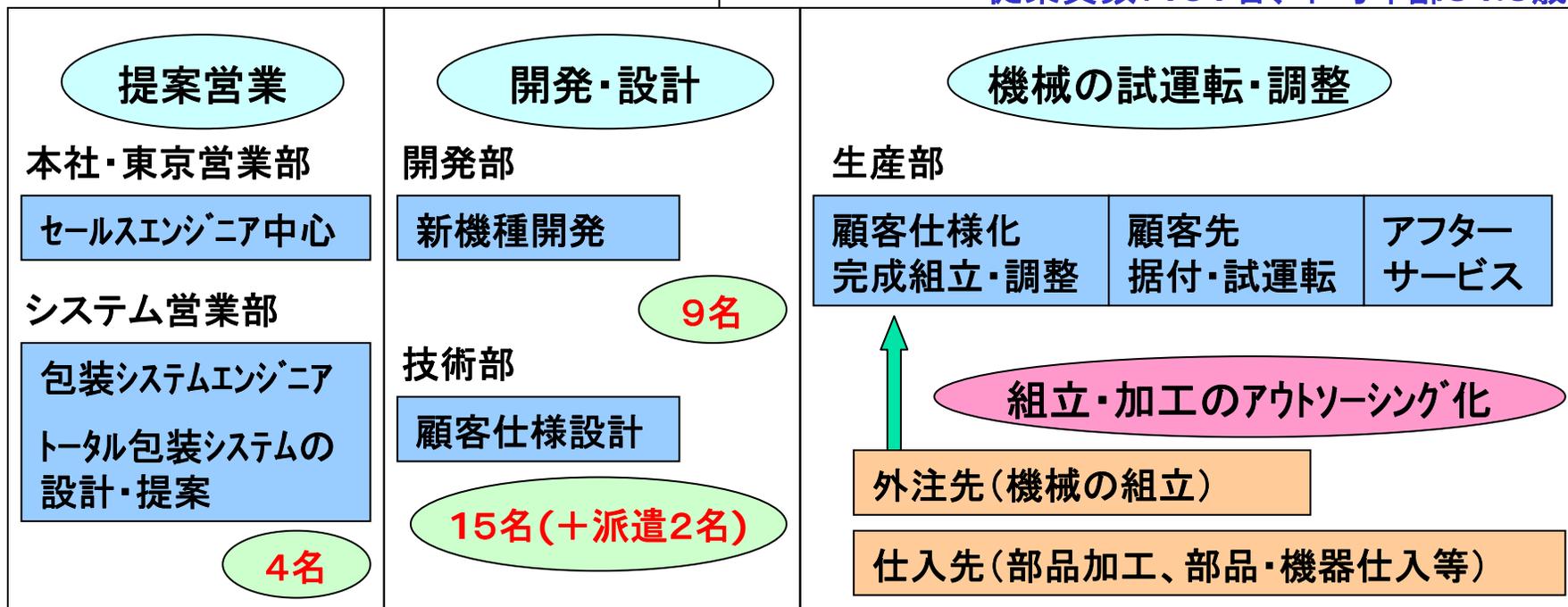
知的労働特化型企业(経営ビジョン)

『少数精鋭主義に徹し、提案営業や開発・設計、機械の試運転・調整等の付加価値の高い業務に特化した企業』を目指す

付加価値の高い業務
に特化した企業

少数精鋭主義

従業員数:101名、平均年齢34.5歳



人数 : 開発・設計系の人材数(H19/7月末現在)

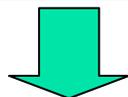
企業ビジョン

- 「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現



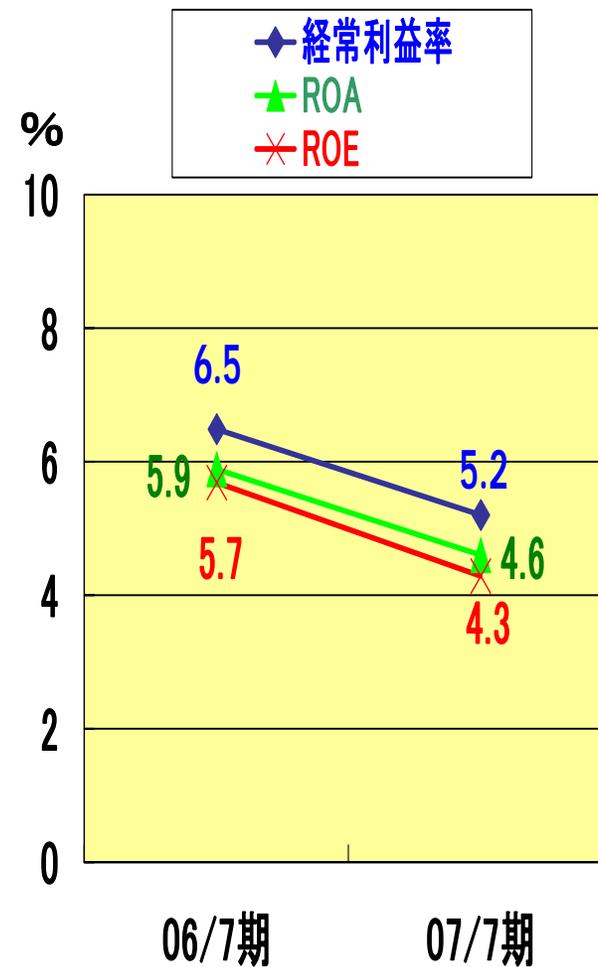
中期経営計画(2006年7月期～2008年7月期)

中期経営計画		最終年度目標
経営目標	売上高経常利益率	5.0%以上
	ROA(総資産経常利益率)	5.0%以上
	ROE(自己資本当期純利益率)	4.5%以上
	利益生産性(全従業員一人当たり 経常利益)	2百万円以上



第2次中期経営計画 (2009年7月期～2011年7月期)

新中期経営計画の策定・実行に向けて、
2008年7月期を戦略再構築・体制整備
の準備期間として位置づけ、成長基盤と
収益体質の再強化を図る。

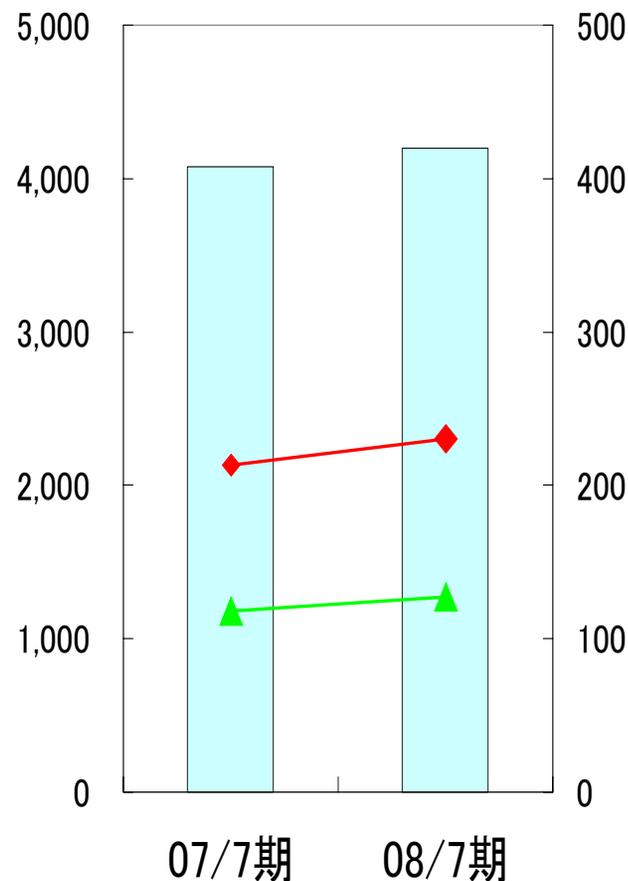
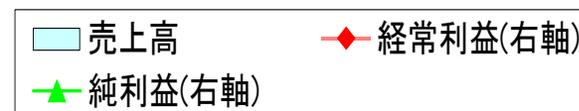


2008年7月期業績予想

大型案件や高額機種が必要が一部回復し、売上高・利益ともに増収・増益

(単位:百万円、%)

	07/7月期	08/7月期	前期比	
	金額 (構成比)	金額 (構成比)	金額	率
売上高	4,074 (100.0)	4,200 (100.0)	+125	+3.1
売上総利益	1,086 (26.7)	1,172 (27.9)	+85	+7.8
営業利益	211 (5.2)	224 (5.3)	+12	+5.8
経常利益	213 (5.2)	230 (5.5)	+16	+7.9
当期純利益	118 (2.9)	127 (3.0)	+8	+7.3



トピックス H19/9月 新工場が稼働

■新工場(本社・東館)概要

鉄骨構造建築4階建

延床面積 2,682㎡ (1階 990㎡)

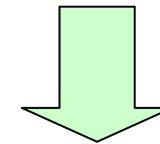
1階 製造フロアー (クレーン能力UP)

2階 事務所、会議室等

3階 事務所、部品倉庫等

4階 社員食堂

分散していた
東第1工場・東第2工場・東倉庫



集約化



株主還元

株式分割による流動性の向上

2007年2月に株式分割(1株⇒2株)を実施

配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、安定配当を堅持しつつ、配当性向30%を目安に、業績動向を見ながら段階的に配当金の増加を図る。

	2006/7期	2007/7期	2008/7期予想
中間配当	6円	7円	3.50円
期末配当	6円	3.50円	3.50円
年間配当	12円	10.50円	7円
当期純利益／株	34.29円	13.17円	14.13円
配当性向	35.0%	53.1%	49.5%

* 2007/7期の1株当たり当期純利益及び配当性向は、株式分割による遡及調整後

包装システムの市場創造型トータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社



当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川
〒481-8601
愛知県北名古屋市字福寺神明65
電話:0568-23-3111 FAX:0568-22-3222
E-mail: info@general-packer.co.jp